

洋上風力発電世界市場に乗り出した韓国企業

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ
(兼) 戦略・産業ユニット 新エネルギーグループ
柴田 善朗

韓国企業による洋上風力発電への取り組みが活発化している。2009 年 8 月に米国の風力発電会社 DeWind を買収した大宇造船海洋は、北米企業から計 55 基の風力発電機を受注するなど風力関連事業を本格化させているが、さらに、2011 年 6 月 15 日に、カナダのノバスコシア州で風力発電設備用工場を完成させた（工場は同社とノバスコシア州がそれぞれ 51%、49%を出資した合弁会社が建設）。この工場の生産能力は年間 200 基以上であり、2015 年の年間売り上げ 1 億 5000 万ドルを目標としている。斗山重工もスコットランドの風力発電事業に 1 億 7000 万ユーロを投資し研究開発拠点も設置することを決定し、洋上風力発電の市場拡大を目指している。英国電力大手の Scottish and Southern Energy (SSE) 社や洋上風力発電開発企業 Serl (SeaEnergy Renewables Limited) などと、韓国のサムスン重工、現代重工、暁星などの大手重工業や風力発電機器メーカーユニソンが、外国企業の投資を誘致し国際ビジネスの拡大を図るスコットランド国際開発庁 (SDI : Scottish Development International) の協力の下、スコットランドと韓国での洋上風力発電開発に関するパートナーシップを模索している。

このような韓国企業による洋上風力発電の国際市場への積極的な取り組みの背景には、主に、2つの要因が考えられる。1つは、海洋開発技術力を有することである。大宇造船海洋やサムスン重工業は、元来、通常の造船に加えてドリルシップなど海洋油田の掘削用の船舶・施設の製造に実績がある。また、現代重工業も、洋上浮体式生産・貯蔵・積出設備 (FPSO : Floating Production Storage & Offloading unit)、海洋設備運搬船、海洋プラットフォームなどの技術力を持ち合わせていることから、洋上風力発電の開発に関して大きなアドバンテージがあると言われている。2つ目は、韓国企業の海外志向の強さにある。過去には、家電製品を含む電気・電子機器に関しては、国内市場規模が小さいことから早くから国際市場をターゲットとすることで活路を見出し大きな成長を続けている。洋上風力発電の場合は、国内では実績が無い現状では、まず海外での実績を先行させ、国内の開発に役立てるといふ戦略がうかがえる。実際、韓国国内では、政府が黄海南東沖に 2019 年までに 250 万 kW の洋上風力発電を導入する計画を立ち上げている。このように、官民の協力の下、洋上風力発電には将来の輸出産業としての期待が高まっている。

このように、技術力及び強い海外進出精神を背景に韓国勢の活発化が顕著になっている。また、国内の陸上・洋上風力発電の開発で先行している中国も海外展開に積極的である。

一方、同様に国内に洋上風力発電の実績がない日本勢では、三菱重工が、英国に洋上風

力発電機器の製造拠点を設置、SSE との開発協力の合意、スコットランドでの洋上風力発電開発に対する 1 億ポンドの投資の決定（昨年 12 月）、など取組みを積極化させ、英国洋上風力プロジェクトの第 3 期での受注を狙っている。また、東芝がユニスンと業務提携し、風力発電機器の共同開発や販売などにおける業務提携について合意し（本年 5 月）、風力発電システム事業への参入を表明しているなどの動きが見られる。

風力発電は洋上風力を中心に大型化傾向にあり輸送コストが高く、開発地点における現地生産が向いていることから、国際競争力を高めるためには、我が国のメーカーも国境を越えた製造・開発が益々望まれる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp